



第 90 号

「国外宣教」

編集発行

日本同盟基督教団
国外宣教委員会

あなたがたは行って
あらゆる国の人々を
弟子としない。
(マタイ 28・19)

日本の主にある友へ

感謝と期待をこめて

マイケル・ポークック

(TEAM宣教師訓練校責任者)

この度は、日本同盟基督教団国外宣

教二〇周年記念大会にお招きをいただきありがとうございます。歴史的な実に感動的な大会で御奉仕をさせていただきますことは、この上もない光栄であり、貴重な体験でした。

家内も、私もはじめての日本訪問でしたが、日本同盟基督教団の諸教会及び日本TEAM宣教師諸師の愛の持成は、私たちの生涯の思い出となることでしょう。

今回の来日をとらして、受けた印象、期待を少しばかり述べ、御礼にかえさせていただきます。

1. 魂への情熱

軽井沢での大会は、御霊の臨在を身近に感じられ、二百五十余名の参加者の顔は、実に輝いておりました。特に主への賛美、祈りが生々として、魅力的でした。

世界宣教の真の動機は、主イエスキリストの大宣教命令にさきよく従い、滅びつつある世界の魂に対して、真の愛を傾ける情熱にあると思います。

2. 潜在力

日本から、年間五百万人もの海外渡航者がおるそうですが、まさに世界のすみずみまで日本の製品や、商社員、その他の働き人を見ることができず。今回、いくつかの地域、東京、軽井沢水戸、土浦などを訪問し、主にある兄弟とお交わりを与えられました。

その中にも、日本の教会には、人的財的、靈的潜在力、今後の世界宣教になうリーダーシップの可能性を見た思いがいたします。東南アジアだけでなく、欧米にも、アフリカ、南米、あらゆる国々に、働き人を送り出されることを期待しております。

3. 研修の必要

世界宣教は、単なる情熱や、力だけではなく、十分に訓練された働き人によって、より効果的にすすめられることとでしょう。

今回の私の講演は、世界宣教に関して、ごく基本的な事柄を、しかも、限られた時間内でしたので、ほんの序論にとどまりました。今後さらに専門的

な研修が要求されることでしよう。研修を継続して、積み上げてゆくことが不可欠です。私は、この来日の体験とおし日本の兄弟との摂理的な親密感を覚えております。必要とあれば、いつでも喜んで共に労苦にあずかりたいと願っております。

4. 収穫は多い

軽井沢での大会では、四十六名の献身者が与えられ、他の地域大会でも青年の献身者が加えられました。聖霊のすばらしい御業によるものと、深く感謝し、共に主を賛美しております。世界の現状を見ると、共産化、イスラム化、世俗化、その他の波が荒れくるっております。今こそ、真理の旗を振る時です。

そのためには、もっともっと働き人が必要としております。今回献身を決定した人ほもちろんのこと、全国の教団内における人々にチャレンジを与え、必要な知識と訓練を与え、全世界に遣わしてください。私たちのTEAMの訓練校も日本からの希望者に喜んで門戸を開いて待っております。

終わりに、日本の諸教会の上に主なる神の豊かな祝福が注がれ、ますます世界宣教に励まれますよう、お祈りいたします。

(文責・石川弘司)

神の霊が激しく下って

― 軽井沢大会の意義 ―

斎藤 成美

七月軽井沢にて行なわれました国外宣教二〇周年記念大会は、非常な感動的なものとなりました。大会といった性質のものに反発はないむしろ消極的になる自分ではありますが、この大会では今だかつてないほどの感動を覚えました。それは私個人の経験だけではなく、参加された全ての人たちがそうであったようです。帰って、各教会で既にその恵みが分けられたことと思います。

この度の大会は、神ご自身がご招集なさったという感が大変強くします。開会礼拝から閉会礼拝に至る全ての集会にひとつの統一があり、あらゆる角度がありました。「世界が畑である。」という再認識に加え、私たちは微に細にいろいろな角度から神の語りかけを受け「神の働き人となる。」挑戦を受けました。神の配慮は行き届いており、参加した全員が何等かの確信を持ったのであります。その中から、四六人の人たちが伝道者としての献身の意を明確にしました。はっきりと国外宣教師の召命を

受けた人もおりました。

今回の大会は、私たちの百周年に向かつて一〇年計画を進める過程で大変重要な「節目」となるのではないのでしょうか。大きな力の源のひとつとなるのではないのでしょうか。神は私たちを揺ぶってください。確かに手応えがありました。もちろん軽井沢大会が全てではありません。各ブロックで持たれた地区大会もそうあります。また、神は別な形を持



っても世界宣教への情熱と力とをお与えにしましょう。個人のデボーションの中で静かに神はある人に献身をお迫りになるでしょう。全能の神のみわざは、実にあざやかであります。軽井沢大会は、「神は確かに私たちを用いて大きなみわざをなさろうとしておられる。」ということの

確信の場であり、山頂のように思えるのであります。神の聖霊は、全教会の内に働き、与えてくださった私たちのビジョンを完成させてくださると信じられるのであります。
(松戸福音教会牧師)

20周年記念大会に参加して

奥深山 頼義

この度の宣教大会は、私共同盟教団人にとって、教会史に一線を画するような意味をもつ大会ではなかったかと思ひ、心から感謝しております。

それは、大会の内容(国外宣教のみを目指した大会であったこと)、集った人数(正規登録者二〇八名、公開集会二五〇名以上)、そこで直

接伝道への献身者四六名、などのことが画期的な意味をもつばかりでなく、「世界宣教を目指す教会」―開会礼拝でのストローム師の説教のことは―としての姿勢に関わることであり、それは又私自身にも新たな献身を迫られたことであった。

講師ポーカック博士の最後の講演の司会をさせて頂き、若き日に読んで感動したオズワルド・スミス博士の著書の中の言葉を新しく思い出した。「自分の霊的問題を中心にして考える修養会よりも、滅び行く世界の靈魂に目を向けさせる宣教大会の方が、はるかにまさっている」というのです。

百周年に二百の教会の同盟が、三十人の宣教師をとのヴィジョンに向う時、困難の方が大きく感じられるけれども、「受けた教会から与える教会」に成長するためには、当然の課題として受止めなければならぬことでしょう。そのためにはどうしても避けて通れない通過地点の一つを通過したのだという感じを強く持っています。

この延長線上にある主の祝福を期して待つ者です。(高山教会牧師)

見たまま、

感じた儘

安藤 仲市

「代は代へと、あなたのみわざをほめ歌い、あなたの大能のわざを告げ知らせるでしょう。」

(詩篇145の4)

軽井沢で開かれた国外宣教二〇周年記念大会は、この種の集いでは画期的で恐らく日本のリバイバルの裏付け、世界宣教への夜明けを告げたものではなかったろうか。

特に嬉しかったことは次代を背負って出て行く若者の数が圧倒的に多かったことで、この中から46名の直接伝道、国外宣教の召しに応じて立ち上った燃えるような涙の祈りには心を打たれた。

祈祷と学びと分科会は熱を帯び宣教大会のメッセージも、われわれを振い立たせた。

ポーカック博士の四回にわたる講演は、伝道の神学とともに、実践面において血の通ったもので、最終回の送り出す教会の中で、「国外宣教における教会の役割」を結び項では声涙ともくだるの光景もあった。栄

光在主。

ユニオン、チャーチにおける夜の宣教の祭典は正に、臨在の中における讚美と証しの饗宴で、予定を一時間半延長しても尽きるところを知らないほどで、最後に全員起立、三人宛輪になっての世界宣教の祈りがなされた。筆者の65年の信仰生活でこのように盛り上った宣教大会の経験は、稀有で、翌日の派遣式にいたるもその興奮はなおさめなかった。

(閉会礼拝講師)

世界宣教への躍動

大会講師の声

◆吉持 章(今大会講師)

よく祈られ準備されたタイムリーな大会だった。ポーカック博士の招聘、各宣教教師の大会参加、軽井沢と言う会場の選定、東京、名古屋、大阪からのバスのチャーター、若者の参加、ハードな中にも臨在溢れた全プログラム、水汲む僕の良い奉仕、教団加入以来の最高の大会だった。

◆岡村又男(今大会講師)

この大会を通して、まさに世界宣教が、聖霊のみわざであることを眼のあたりに見せられ、二〇年間の国

外宣教の働きが、そのみわざの一端であったことを感謝した。

講演を通して、国外宣教の位置づけが明確にされ、宣教百年に向けて新たなチャレンヂが与えられた。

◆若狭正一(今大会実行委員長)

聖霊が働き給うた大会で、46名の献身者が与えられ、参加者一同が宣教の焔に燃やされた。

ポーカック博士の静かな人柄から語りかけられる学びが、印象的で素晴らしかった。

派遣宣教

師全員と海

外教師が一

同に会した

歴史的集い

であった。

◆清野勝男子(インドネシア宣教教師)

偶然に偉業を成し遂げた偉人はいません。使命を自覚した者のみ、価値ある業績を残したのです。そして我々は、同盟教団の使命が『世界宣教』であることを確信し、その偉業にすでに着手したのです。

◆寺田由弘(台湾宣教教師)

今回私は、第二期の途中皆さんとお会い出来、この二年間をゆっく



ふり返り、新しい出発が出来ること感謝でした。又世界宣教の中で、我々は皆同盟ファミリーとして、世界宣教の良き同労者であることに感謝します。

◆鈴木教子(カナダエスキモー宣教教師)

今大会で一人の青年がカナダ土着民(インディアン、エスキモー)のために献身、感謝である。が、私はあくまで主に頼み続けたい、もっと多くの働き人を、と。インディアンのクリスチャン指導者も、インディアン伝道のあるミッションの働き人も「白人でなく、日本人が来て宣教すべきだ」と断言している。

◆渡辺賢治(タイ宣教教師)

十年に一度会えるかどうかの全宣教師の集合。宣教大会で多くの若者が宣教教師として献身を表明して主の前に集合。この姿を見て世界宣教への躍動を感じました。「全世界に出て行って……福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ16・15)

4ページから

◆柴田順一(世田谷中央・神学生・23才)

無条件の全き献身を迫られ、インディアン・エスキモー宣教に生涯を献げる決心をしました。イザ6・8

- ◆稲垣初江(松戸福音・OL・34才)「いつまで迷っているのか。私のために働いてほしい。」と言われる神の御声を聞き直接献身を決意しました。
- ◆鈴木真理子(松戸福音・保母・21才)「働き手が少ない。」小さな者でも主が必要とされる時に、喜んで受けることの出来る自分に、時を祈りつつ。
- ◆倉沢泉美(松戸福音・学生・17才)エレミヤの様に何も出来ない弱い私だが、主に支えられて、滅びゆく魂の為に世界宣教への献身を決意。
- ◆柿島文人(松戸福音・学生・16才)僕は神様からの招きに背いてしまいその後の心は大変乱れた。僕は祈って決心した、宣教師になろうと。
- ◆荒羽真理子(古河・寮母・19才)愛するイエス様が「働き手が少ない」と私に呼びかけておられるのに、どうして無視する事ができるでしょう。
- ◆伊藤明美(銚子・教員・25才)主の促しを受け、献身の決意をした。幻が同じ友に生まれ、共に祈る三日間だった。主は生ける神なり。
- ◆岩沢規広(横浜上野町・大学生・21才)長い間祈り求めておりましたが、献身への明確な召命が与えられ、主に感謝しております。

- ◆加藤栄子(シオンが丘・事務員・20才)全き献身ということに、ためらっていたが、今大会でエレミヤの召命により献身の確信が与えられた。
- ◆高橋浩美(新潟福音・検査技師・22才)思いを起こさせ遣わそうとして下さる主に感謝。目的地は遠くとも奇しい導き主の御手にひかれて。
- ◆市川智文(大電キリスト・大学生・19才)神様の御心に従わぬ自我が真に砕かれ、無となって、ただ誠実のあらんことを。―献身への第一歩として。
- ◆梅野新子(碧南聖書・看護婦・24才)生きたゴミ箱と言われる私にも神様は必要としていることを知った。みこころならばどの地でも……。
- ◆川腰千秋(茨木聖書・教師・25才)あなたはネブカデネザルの信者かそれとも神の信者か?―その問いに真に神に仕える決意を新たにしました。
- ◆吉持敏信(茨木聖書・学生・21才)この大会によって、将来、宣教師になろうという確信が、いっそう強められ感謝でした。
- ◆吉持日輪生(茨木聖書・浪人生・19才)牧師になれば、父と比べられるため

献身決心者の声

わたしを遣してください

- 逃げる気持ちがあったが、この大会で再決心することができ感謝でした。
- ◆横村育夫(松原聖書・28才)私の将来は主に委ねた人生になりました。いと願っています。不安の多い中ですが、主がなして下さる事を信じて。
- ◆大畑士郎(蛭池聖書・会社員・28才)聖霊の迫りを感じる大会でした。どんな道であっても主に従っていかなければと思いを新たにされました。
- ◆内田温子(蛭池聖書・OL・22才)失なわれた魂のために、全く無力な私でさえも、用いる事の出来る方に従いたいという思いが与えられた。
- ◆宮澤一幸(学園前聖書・公務員・24才)「主の細き御声」に耳を傾けることを示され、思いがけず献身に導かれました。まずは信頼の第一歩です。
- ◆新垣景雄(沖繩中央・会社員・46才)久し振りに多くの御言と生きた証しに触れ、自らの信仰を問い正された思いでした。燃える信仰を持ちたい。
- ◆城村好恵(名護聖書・保母・31才)何一つとりえない土の器にすぎない者ですが、主が必要ならばと、献身の決心をしました。感謝。
- ◆川島茂典(小竹町聖書・神学生・24才)私は、世界宣教が前進する鍵だと思いう宣教師と教会とのパイプ役に重荷を持ちました。
- ◆菊池充(小竹町聖書・神学生・24才)この大会に於て私は、靈に感動し、召され、神と人との前に宣教師として自分を献げ委ねる事ができました。
- ◆島村秀雄(赤羽聖書・神学生・24才)台湾の伝道に重荷がありました。今回の大会で主から決断を求められ宣教師としての召命を受けました。
- ◆佐々木光恵(世田谷中央・神学生・21才)「主のみわざを語り告げよう。」(詩18・17) 主の愛と恵みに応答し必要な器としての備えを祈っています。
- ◆山本真理(衣笠中央・神学生・21才)「主はすばらしいことをされた。これを、全世界に知らせよ。」(イザヤ12・45) 今大会に於いて召されました。
- ◆源田紀美子(佐渡金井・神学生・21才)黙示7:9、10の実現のために、主が遣わされた所で、キリストの御名を宣べ伝えたいと願っています。
- ◆石川正(碧南聖書・神学生・30才)この大会で宣教師としての召命に確信が与えられてとても感謝でした。さらに皆様のお祈りをお願いします。